



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル： ネタニヤフ首相とオバマ大統領の会談

3月3日、米国を訪問したイスラエルのネタニヤフ首相は、ホワイトハウスを訪問してオバマ大統領と会談した。両者は約3時間会談した。両首脳は、会談の前にメディア向けに約15分會談した。同會談では、オバマ大統領は、イスラエルに中東和平での決断を要請した。ネタニヤフ首相は、最初にイランの核の脅威について言及し、中東和平問題については、イスラエルは自国がやるべきことはやっているが、パレスチナ側がやっていないと非難した。また同首相は、イスラエル国民の安全のためには自分はいかなる圧力にも抵抗すると述べていた。両首脳の會談後、声明などは発表されていない。報道によれば、両者の會談の雰囲気は敵対的ではなく、イランやシリアにはふれず中東和平問題だけが協議された。ネタニヤフ首相は、オバマ大統領に対し、パレスチナ側も譲歩するようアッバース大統領に求めるよう要請し、オバマ大統領は同意したと報道されている。オバマ大統領は、アッバース大統領と3月17日に會談する予定である。

オバマ大統領は、ネタニヤフ首相との會談前日の3月2日、経済系情報サービス Bloomberg との會見で、中東和平問題について、和平の枠組で合意に至ることを期待すると述べていた。同大統領は、中東和平の進展がない場合、イスラエルは国際社会で厳しい立場になるが、イスラエルを支援する米国の選択肢は限られたものになるとの考えを表明していた。

ネタニヤフ首相は、オバマ大統領と會談した翌4日、ワシントンで開催された AIPAC 會合で講演を行った。これまでネタニヤフ首相が米国議会や AIPAC で行った演説と比較すると、中東和平の部分は和平に前向なトーンだった。ネタニヤフ首相は、最初にイランの核政策に対する強い不信感を表明した。この部分のトーンは従来と同様だった。その後、中東和平問題にふれた際、ネタニヤフ首相は、最初に和平の成果について言及した。同首相は、イスラエルと主要アラブ諸国の関係が改善されれば、地域経済が活発化する話をした。その後、パレスチナ側に、イスラエルがユダヤ人国家であることを認めるよう求めた。また安全保障上の取り決めについては時間をかけて実施する必要があること、イスラエルの安全は外国軍隊ではなくイスラエル軍しか守れないことを強調した。ネタニヤフ首相は、演説の最後の10分以上を使ってイスラエルに対する経済ボイコットを非難した。4日付の米国の NYT 紙、イスラエルのエルサレム・ポスト紙、ハアレツ紙などは、ネタニヤフ演説のトーンの変化についてふれているが、解釈は異なっている。ネタニヤフ首相の演説を聴く限り、前日のオバマ大統領との會談で何かがあったと推定するのはあながち無謀とはいえないだろう。

(中島主席研究員)